

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和5年度第1回相模原市文化振興審議会		
事務局 (担当課)		文化振興課 電話042-769-8202 (直通)		
開催日時		令和5年7月28日(金) 10時00分から12時00分まで		
開催場所		相模原市民会館2階 第2大会議室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	0人(別紙のとおり)		
	事務局	8人(市民局スポーツ・文化担当部長、文化振興課長、文化財保護課長、他5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 自己紹介 3 会長・副会長の選出 4 議 題 (1) 第3次さがみはら文化芸術振興プランの改訂に係る取組について (2) 文化芸術に係る市民アンケート調査案について 5 報 告 (1) (仮称)アートマップの作成について (2) アートラボはしもと再整備事業の取組状況について 6 閉 会		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

### 1 開 会

市民局スポーツ・文化担当部長より挨拶を行った。

また、本日の会議について、奥山委員、鈴木(正)委員から欠席の連絡を受けていることを報告するとともに、出席委員数が定足数に達していることを確認した。

### 2 自己紹介

委員全員が自己紹介を行った。

### 3 会長・副会長の選出

互選により、会長に大森委員、副会長に杉森委員が決定した。

### 4 議 題

(1) 第3次さがみはら文化芸術振興プランの改訂に係る取組について

(2) 文化芸術に係る市民アンケート調査案について

事務局から資料1及び2に基づき、説明を行った。

◆以下、質問及び意見

(金子(朋)委員) Q28の選択肢について、「世代交流」のようなものを加えてはどうか。若者と高齢者の関わり合いについてなど。

(事務局) 「世代交流」について、選択肢に盛り込みたいと思う。

(井部委員) アンケートに答える人が迷わないことが大事である。①「Q6 コロナの影響」は、Q9の後に持ってきた方が良いのではないか。Q6の選択肢では、「コロナによってあなたの文化的な活動にどのような影響があったか教えてください。」というような聞き方が良いように思う。次に、②Q7について、一般の方は「鑑賞」をイメージしてしまいそうなので、「鑑賞を除く」という記載にした方が良いのではないか。また、③Q11の質問文について、「あなたが文化的な活動を行ったことのある市内の公共施設はどこですか。」という表現が良いと思う。続けて、④Q22の選択肢に、「文化芸術イベントガイド」と「情報紙 Move」を加えてはどうか。⑤Q23の項目については「情報の入手・発信方法」となっているにも関わらず、設問では動画配信の話題となっており、両者の意図が結びつかないので、書きぶりを工夫された方が良いのでは。例えば、鑑賞機会の充実などが考えられる。

(事務局) 全てご指摘のとおり修正する。

(鈴木(國)委員) 相模原市は魅力がある、希望に満ちている。その辺りの市民の思いを汲むことが重要と考える。最後の自由意見欄に「相模原市の文化的な魅力は何

でしょうか」「将来文化的な市としてどのようなものを作っていけるか」というような、市民の熱い思いを汲み取れるような問いを設けてはどうか。

(友田委員) Q7 と Q15 についてだが、文化は範囲が広いのでオーケストラ、吹奏楽、合唱、アンサンブルなどジャンルを少し細かくした方が選びやすいのではないか。

(杉森委員) アンケートはご厚意で答えてもらうものなので、設問を分かりやすく、答えやすいようにした方が良いのではないか。質問の文章が長すぎると思う。「あなたの年齢をおしえてください」の「あなたの」を削除しても良いと思う。もっと簡潔に答えやすい設問にし、2～3行のアンケートにしないと回答者にストレスがかかる。選択肢についても、まとめられるものはまとめて、文章を簡潔に分かりやすくした方が良いのではないか。

(吉岡委員) 市民の方が文化を楽しんでいるのかどうか、将来に向けて相模原が文化的に良くなると感じているのかどうか気がなる。

(土浦委員) 「民俗芸能」の例示が書かれているが、「獅子舞」も入れて欲しい。

(大森会長) 予算を投じてアンケートを行うと思うので、プランの評価の確認が目的だとは思うが、QR コードを読んでアンケートに回答する形であることを考えると、項目や目的をもう少し分かりやすくし、アンケート結果がどのように使われるのか、どのように役立つのかなどを分かりやすくした方が良いのではないか。また、一般市民からすると「作品制作」については縁遠いところがあると思うので、その辺りの設問はぼかした方が良いかと思う。3,000 人から回答を得るにあたり、年齢ごとに回答を見ると思うが、回答者はどのように決定するのか。無作為にシステムから抽出するのか、年代ごとに何人と決めるのか。

(事務局) 前回のアンケート実施時と同様に、特に年代ごとに抽出はせず、区ごとに人口比率を踏まえて無作為に抽出する。外国籍の方も対象になる可能性があるため、ルビ付きの調査票も用意していく予定である。

(大森会長) もう一つ。Q11 は施設について書かれており、Q7 は文化的活動の分野について書かれているが、市民の方々にハード面やソフト面を紹介していく役割を持たせて、相模原らしい特徴的な選択肢を設けても良いのでは。

(友田委員) アンケートの依頼はがきを送るのは世帯主宛か。

(事務局) 16 歳以上の市民が対象であるため、調査対象者が世帯主とは限らない。無作為抽出した結果、お子さん宛にはがきを送ることも有り得る。あくまで個人に依頼を行うものである。

## 5 報告

(1) (仮称) アートマップの作成について  
事務局から資料3に基づき、説明を行った。

◆以下、質問及び意見

(大森会長) デジタル弱者に対してはどのような対応を考えているのか。

(事務局) 紙媒体でのマップについては、今年度すぐに作成しようとは考えていない。

なぜなら、今回作成するマップはあくまで第1ステップのものであり、今回作成すれば市内の情報を全て網羅できるとは言い切れず、少しずつ更新をかけて完成させる必要があるからである。更新するためには作業時間も調査の期間も必要なので、ある程度追加情報がまとまった段階で紙媒体でマップを発行していければと考えている。一方で、予算の関係もあるので、更新頻度も考えないといけない。

(友田委員) グーグルマップ自体でも構設施設の情報が見られるが、どのように差別化するのか。

(事務局) まず、施設のピン(アイコン)のデザインを分けたいと思っている。また、紹介文や休館日などの情報により差別化していく。また、写真の掲載についても検討中だが、当面はURLから施設のHPに飛んで見ていただく形で運用していきたい。

(金子(光)委員) 民間のギャラリーでも様々な展示会などを行っているが、それらを載せるかどうかなど、線引きはどのように考えているのか。

(事務局) まずは、例年秋に発行しているイベントガイドに記事が載っているギャラリー等の施設を中心に載せていくが、ゆくゆくは民間ギャラリーの情報も載せていきたい。まずは1度作って、掲載の可否について意見を募り、参画を希望された施設を掲載するなど徐々に範囲を広げていきたい。

(金子(光)委員) 障害者施設でもアートが生まれている。それらも載っていったら、より生き生きとしたマップになるのではないかと思う。

(事務局) 市オリジナルのマップにしたいので、今後は色々な情報を集めて載せていきたい。

(吉岡委員) スーパーオープンスタジオに所属しているスタジオは、普段は家兼制作スタジオのような形になっている場所もあり、自由に来てもらっては困る場合もある。イベント期間等の期間限定のような運用なら可能性はあるかもしれない。

(三本委員) 医療機関での展示もあるので、今後、範囲を広げられたら良い。

(杉森委員) 入れていきたい情報についての相談だが、マップを見て初めてその場所に行く方が多いと思うので、「アクセス情報」を入れてはどうか。例えば、どのバスに乗れば目的地へ行けるのか、最寄りのバス停はどこか、徒歩どれ位かなど、土地勘のない人でも分かりやすいようにしてほしい。

(三本委員) 事務局側は作るのがとても大変だと思うので、作成に係る実情を伝えていただいた方が良いのではないか。正直な気持ちを教えてほしい。

(事務局) 力を入れていきたいという思いはある。一方で、説明の中でキックオフという言葉を使ったのは、いただいたご意見全てを現在の職員のマンパワーでは対応できないのも事実であるため、そのようなフレーズを使った次第である。本来

であれば昨年度までに着手しておかなければならなかった事案だが、なかなか着手出来る状態ではなかった。一方で、何もしないままというのも良くないため、まずは走り出したいと思つての提案である。「アクセス情報」についても、時間をかけてやっていきたい。1年では厳しいので、時間をかけて少しずつ取り組むことをご了解いただきたい。

(文化振興課長) このマップは作つて終わりではなく、メンテナンスが重要と認識している。民間の情報を細かく載せることも重要である一方、閉店情報をどうリアルタイムに載せていくかなどの課題もあるので、その辺り検討を重ねていきたい。

(田嶋委員) 私が所属する団体でも以前マップを作成したことがあるが、屋外アート等の情報も載せたら、グーグルマップでは見られない、特徴的なマップになると思う。マンホールや橋のところにあるオブジェ、素敵なフェンス、アパートの壁画などの掲載についても、ゆくゆくの検討をしていただけたらと思う。

(三本委員) マップについては、一般市民の方への広報的な役割を担うことも大事だが、作家や音楽家などどのような方が市民の中にいるのかという情報についても、それぞれが連携したり情報交換できるようにするためにも、人材ネットワークのようなものを構築できたら良いと考える。

(大森会長) 色々な意見が出ているので、整理したいと思う。まず、マップについてはメンテナンスが大変だと思う。また、市が作るマップなので安全性や信頼性が最重要課題であると思うので、柔軟性にあたる要素である短期的なイベントや景観に溶け込むようなものをマップに加えることなどについては、切り分ける必要があるのではないかと。マップの中で記載するものと、それ以外のものについて、一度キックオフした後で検証し、解決していくのが良いのではないかと。また、マップ内の項目の管理について、通しナンバーをどのように番号をふっていくのか。エントリー制にしていくのか、など、整理する必要があると考える。

## (2) アートラボはしもと再整備事業の取組状況について

事務局から資料4に基づき、説明を行った。

### ◆以下、質問及び意見

(田嶋委員) 民間事業者を選考した際に、優先交渉権者と次点交渉権者の価格点差が大きかったが、どのように解釈すれば良いか。

(事務局) 価格審査と内容審査の2つの観点から審査を行ったが、優先交渉権者の提案は市が設定した借地料基準値よりも大きく上載せした価格を出してきたため評価が高くなり、優先交渉権者に選定したものである。結果、同社は優先交渉権を辞退したが、次点交渉権者も内容審査は高い評価であったため、話が具体化し進むことを期待しているところである。

(市民局スポーツ・文化担当部長) 経緯としては、提案時点では住宅展示場に出店す

るハウスメーカーが一定数確保でき採算が取れると思っていたが、結局メーカーを予定数集めきれず、採算が合わなくなったため辞退したということである。

(文化振興課長) 優先交渉権者からは、休日のモデルハウスでのアートイベントの提案もいただいております、それらの事業をアートラボとコラボして行う予定だったため、そのあたりも評価していたところではあった。

(金子(朋)委員) 優先交渉権者に選定して1年も経過した後でキャンセルというのはとても失礼な話だと思う。何かペナルティは与えられないのか。

(文化振興課長) 優先交渉権者と結んでいる協定は、本契約に向かうまでの協力体制を構築し事業が成立するよう双方努力することを確認したものであるため、違約金などのペナルティを課すことは難しい。

(金子(朋)委員) アートラボがいつ完成するのも心配であるし、次点交渉権者の企業も大変だと思ったので意見した。

(文化振興課長) 次点交渉権者も一度プロジェクトチームを解散しているため、再び体制を立て直すことを考えると、ラボの建設には時間がかかることになる。

(鈴木(國)委員) 文化芸術振興プランのP15にもあるように、市が美術館の建設について検討をしていた経過があったかと思うが、アートラボを美術館として位置づけて進めていく方針という理解で良いか。

(事務局) 本市では、美術館基本構想の中で作品を観覧するための施設としての美術館と教育普及を行うための美術施設の2つに分けており、両施設を今後作っていくという構想を持っている。基本構想の中では、アートラボを先行して整備していくということも記載しているため、それに従い進めているところである。なお、前者の美術館の建設に関しては、行財政構造改革の中で、令和9年度までは調査・検討をしないということになっている。

(鈴木(國)委員) 将来的には前者の美術館もぜひ整備していただきたいと思う。

(三本委員) 美術館と言うと見せることが中心になりがちだが、収蔵もとても大事で、その部分も重視すべき。財政難についても、文化にだけ財源が向けられていないかのように感じられてしまうので、市から、全市的な財政難やひっ迫状況について、もう少し具体的に説明いただくと、市民も納得できると思う。

(大森会長) アートラボの件に関しては、他の自治体や国レベルでも同様なことが起こっているの、企業との協定や契約を結ぶ段階で、今後はペナルティを設けることを審議会から助言として出させていただければと思う。

## 6 閉 会

文化振興課長より挨拶を行った。

以 上

令和5年度第1回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	井部 弥生	公益財団法人相模原市民文化財団事務局次長		出席
2	大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	奥山 泰三	相模原音楽家連盟会長		欠席
4	金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		出席
5	金子 光史	フェース of ワンダー主宰		出席
6	杉森 順子	日本工業大学先進工学部情報メディア工学科教授	副会長	出席
7	鈴木 國男	相模原芸術家協会		出席
8	鈴木 正彦	光と緑の美術館館長 総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会委員長		欠席
9	田嶋 いづみ	公募委員		出席
10	土浦 陽一	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
11	友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
12	三本 博子	公募委員		出席
13	吉岡 知秋	Super Open Studio NETWORK 代表		出席